



**Data**

監督: ラッセ・ハルstrom ジョー・ジョンストン

出演: キーラ・ナイトレイ / マッケンジー・フォイ / エウヘニオ・デルベス / ジェイデン・フォーラニ / リチャード・E・グラント / ミスティ・コーブランド / ヘレン・ミレン / モーガン・フリーマン

### ■■■ショートコメント■■■

◆私はチラシに書いてあるように、「この冬、夢の王国ディズニーしかなしえない極上の映画世界へ 究極のプレミアム・ファンタジー開幕！」を期待したが、全く期待外れ。物語が陳腐なら、だれもが親しめる名曲「くるみ割り人形」の使い方も中途半端だから、実に残念。

◆出演者の最初にキーラ・ナイトレイが入っているのに、主役はクララ・シュタールバウム役のマッケンジー・フォイ。シュガープラム役のキーラ・ナイトレイは何と悪役だった。また、モーガン・フリーマンはそれなりの当たり役(?)だが、ヘレン・ミレンは何ともケツタイな役だ。これでは、とても適材適所とは言えないこと明らかだ。

◆もっとも、キネマ旬報12月下旬特別号の「REVIEW 日本映画&外国映画」では、①「可愛い主人公クララ (マッケンジー・フォイ好演) が科学と機械が大好きな少女だという話なので、全篇、カラクリと仕掛けが楽しめる作品。オモチャの兵隊やネズミの大群の動きも面白い。」②「キーラ・ナイトレイやモーガン・フリーマン、ヘレン・ミレンそれぞれに見せ場を作って、贅沢な感じを与える。」③「音楽は『ファンタジア』以来の伝統を受け継ぎ、劇中で挿入される舞台の踊りも見事でディズニー映画のよさを発揮しているとおもった。」と書き、星5つをつけている評論家が1人いた。しかし、私にはこの意見は不可解だ。本作の鑑賞はハッキリ言って時間のムダ！

2018 (平成30) 年12月12日記